

清流劇場 2019年7月公演

出演  
高口真吾 Takaguchi Shingo

泉希衣子 Izumi Keiko

倉増哲州 南森町クラスホッパーズ  
Kuramasa Tetsyuu

服部桃子 Hattori Momoko

日永貴子 Hinaga Takako

永津真奈 Arjpe Nagatsu Mana

立花裕介 Tachibana Yusuke

萬谷真之 Mantani Masayuki

上海太郎 上海太郎カンパニー  
Shanghai Taro

音楽・演奏  
仙波宏文 Semba Hirofumi

アルケステス異聞

# Alcestis

a strange episode

SEIRYU THEATER 2019  
Alcestis - a strange episode

playwriting : Euripides  
translation, adaptation & dramaturgy : Tange Kazuhiko  
adaptation & direction : Tanaka Atsuya

原作 / エウリピデス  
原作翻訳・作・ドラマトゥルク / 丹下和彦  
構成・演出 / 田中孝弥

2019年7月11日(木)~14日(日)  
会場 / 一心寺シアター倶楽

三日間ずっと考えつきました。  
助かった命をどう使おうかと。  
思いがけなく授かった  
度目の人生を  
どう生きようかと。

## introduction

私たちは突然、「死」を宣告されたらどうするでしょうか？ ただし、「身代わりを差し出せば死なずに済む」となれば、どうするでしょうか？

ギリシア劇『アルケステス』の中で、「死」を宣告されたアドメトス王はあちこち色んな人に頼んで回りますが、身代わりを得られません。両親にも頼みますが拒否されてしまいます。最後に妻のアルケステスが身代わりを承知してくれて、やっと命拾います。これは何も古い伝承の世界だけの話ではありません。現代の私たちの身の周りにある話です。生死をめぐる人間の精神と行動の有り様は時と場所を選びません。しばしば悲劇的にして喜劇的な様相を呈しつつ、人の世の哀しさ、人の身の悲しさを見せつけます。

原作『アルケステス』（エウリピデス作）は、サテュロス劇の代用として書かれたとされ、大詰めは「妻アルケステスの甦（よみがえり）」を寿ぐ合唱隊の歌で終わっています。しかし、本当に「妻が生き返ったこと」は喜ばしいことなのでしょうか？

また、アルケステスを沈黙させたまま終わる原作の結末が、「出演できる俳優の数に制限があったギリシア劇上演の規則から、〈黙（だんまり）を使わざるを得なかった苦肉の策〉というのは、あくまで表向きの理由ではないかと考えます。実のところは、「三日後の妻アルケステスの行動を想像してみてもどうか？」という、作者エウリピデスの巧妙にして老獪な思惑があったのではないのでしょうか。

本作品はその意を汲んで、原作『アルケステス』に描かれた人間の生死をめぐる家庭の悲喜劇に、「新しく生きること」へ目覚めた妻アルケステスを描き加えたものです。

『アルケステス異聞』、ご期待ください。 田中孝弥

【注釈】  
サテュロス劇：山野の精で想像上の生き物であるサテュロス（山羊の蹄と角をもつ若者）が合唱隊（コロス）を務める短い笑劇。悲劇を観た後の重苦しい雰囲気を取り払う口直しの劇として添えられた、とも考えられている。

<https://seiryu-theater.jp>

清流劇場ウェブサイトでは、過去の作品のダイジェスト映像や舞台写真を公開しております。是非、ご覧ください。  
メンバー募集 ● 清流劇場の活動に興味のある方、俳優・スタッフに興味のある方は、劇団までご連絡ください。

芸術文化振興基金助成事業

SEIRYU THEATER  
清流劇場

# synopsis

あらすじ

古代ギリシアの小王国ペライを治める王アドメスは突然、「死」の運命に襲われます。ただし、「誰か身代わりになってくれる者を見つければ、その死を免れることが出来る」という条件が付きます。アドメスは懸命になって身代わりを探しますが、年老いた両親をはじめ誰一人として引き受けてくれる者はいません。最後に妻のアルケステスが身代わりを申し出てくれて、やっとアドメスは命拾いをします。アルケステスが、死に神に導かれて冥界に下る当日。皆が彼女を惜しみつつ、悲嘆に暮れているところへ、アドメスの友人ヘラクレスが訪ねてきます。トラキア王が所有する人食いの暴れ馬を奪いに行く途中、アドメス邸へ寄ったのです。ヘラクレスはアドメスの異変に気づき、「誰が亡くなったのか?」と尋ねますが、情が深く義に篤いアドメスは「他家の者だから気にするな」と、妻の死を隠してヘラクレスを歓待します。ヘラクレスは事情を知らないまま接待を受け、心地よく酩酊してしまいます。

アドメスの父親ペレスはアルケステスの葬儀に参列しますが、親子の間で「身代わりの死」を巡って口論が起きます。アドメスは「何故、若い先短い父親が身代わりになってくれなかったのだ。臆病者。もう、あなたのことは親とは思わない」と怒りを向けます。父ペレスは「息子の身代わりに親が死ぬ義理もないし、そのような掟もない。お前こそ、妻を身代わりにした臆病者だ」と罵ります。

酩酊したヘラクレスは召使いから「実は亡くなったのは、妃のアルケステスだ」と知らされます。事情を知ったヘラクレスは喪中を隠してまで歓待してくれたアドメスの心意気に感じ入り、アルケステスを冥界から取り戻すべく死に神と格闘し、見事彼女をこの世へ連れ帰ります。甦ったアルケステスでしたが、この後、三日目の朝が来て、冥界に捧げられた身の清めが済むまでは口が利けません。アドメスは妻アルケステスの三日後の完全な「甦り」を待って祝宴を催すことにします。……と、エウリピデスが書いた『アルケステス』はここで幕を閉じますが、本作品はこれを受け継ぎながらさらに話を続けます。

三日目の朝、アルケステスは夫や子供に内緒で館を出て行こうとしています。妻を祝う宴会を準備していたアドメスはその姿を見つけ、呼び止めます。もう一度生きる機会を得たアルケステスと、これまで通りの「受動的な生」を過ごそうとする夫アドメス。三日目に口を開いたアルケステスは夫へ何を語りかけるのでしょうか。

古代ギリシア文学者・丹下和彦による補綴『アルケステス異聞』。是非、ご覧ください。

あなたはきつと気にするの。  
私があなたの身代わりに死んだことが重荷になるの。

# Euripides PROFILE

エウリピデス (紀元前480年(『エウリピデス伝』『スーダ辞典』による)～紀元前406年)

ギリシア三大悲劇詩人の一人。父親ムネサルコスと母親クレイトの間に生まれる。父親は貧しい行商人。母親は市場の野菜売り。アテナイ市もしくはその近くのサラミス島で生まれたとされる。はじめは格闘技の選手を目指すのが、のちに精神的世界へ関心を示し、プロタゴラスに修辞学を、ソクラテスに倫理学と哲学を学ぶ。アナクサゴラスへも師事するが、彼の学説が「太陽神アポロンへの不敬」とされ、政治的迫害を受けたのを機に、悲劇作家に転身する。その作風は革新的であり、伝統的な悲劇の世界へ知性と日常性を導入した。作品様式面では「機械仕掛けの神(デウス・エクス・マキナ)」という創作技法を多用したことが特徴的である。紀元前408年、マケドニア王アルケラオスに招かれ、都(ペラ)へ赴く。紀元前406年、マケドニアで客死。劇壇のライバル・ソポクレスは訃報に接し、丁度競演会の予備行事の場にいたが、喪服に着替えて弔意を表したという。その容貌については「そばかす、濃いあごひげ」との短評あり。作品は三大悲劇詩人の中で最も多い19編が残存している。

主な作品:『メディア』『ヒポリュトス』『エレクトラ』『タウロイ人の地のイビゲネイア』『ヘレネ』『オレステス』『パッコス教の信女たち』等



Takaguchi Shingo



Izumi Keiko



Kuramasu Tetsyuu



Kattori Momoko



Hinaga Takako



Nagatsu Mana



Tachibana Yusuke



Mantani Masayuki



Shanghai Jaro



Semba Hirofumi

出演／

高口真吾

泉希衣子

倉増哲州

南森町グラスホッパーズ

服部桃子

日永貴子

永津真奈

Aripe

立花裕介

萬谷真之

上海太郎

上海太郎カンパニー

音楽・演奏／

仙波宏文

原作／

エウリピデス

原作翻訳・作・ドラマトゥルク／

丹下和彦

構成・演出／

田中孝弥

舞台監督／ K-Fluss

舞台美術／ 内山勉

舞台美術アシスタント／ 新井真紀

照明／ 岩村原太

照明アシスタント／ 嵐見結莉耶

照明オペ／ 木内ひとみ

音響／ 廣瀬義昭 (佐チーアンドクルー)

音響オペ／ 奥村威

衣装／ 田中秀彦 (iroNic edit DESIGN ORCHESTRA)

衣装アシスタント／ 加藤沙知

ヘアメイク／ 崗染原論子 (High Shoek)

ヘアメイクアシスタント／ 島田裕子

小道具／ 濱口美也子

振付／ 東出ますよ

写真／ 古部栄二 (佐テス・大阪)

ビデオ／ 藤 WAVIC

web・制作協力／ 飯村登史佳

宣伝美術／ 黒田武志 (sandscape)

特別協力／ 森和雄

演出助手／ 大野亜希

協力／ (佐)ウォーターマインド

イズム

㈱ MC 企画

㈱舞夢プロ

10ANTS

パンタンデザイン研究所大阪校

植木貴久子

堀内立登

佐々木治己

川口典成

嶋田邦雄

山下智子

森岡慶介

居原田晃司

提携：一心寺シアター倶楽

制作／ 永朋

企画／ 清流劇場

# 清流劇場 2019年7月公演

『Alcestis - a strange episode アルケステス異聞』

7月11日(木)	14:00【青組】	19:00【白組】
12日(金)	19:00【青組】	
13日(土)	14:00【白組】	19:00【青組】
14日(日)	14:00【白組】	★終演後アフタートークがあります。出演者はwebで公表します。

※各回、開演10分前より田中孝弥によります《ピフォアトーク》を行います。

全公演に全員出演しますが、配役が各回により異なります。  
【青組】公演はアルケステス役を泉希衣子・ヘラクレス役を立花裕介が演じます。  
【白組】公演はアルケステス役を永津真奈・ヘラクレス役を倉増哲州が演じます。

※荒天・自然災害が生じた場合は、劇団ウェブサイトにて随時開催状況に関する情報をお知らせします。

■入場料金／日時指定・自由席 (ギリシアにちなんだプレゼント付き)  
(公演サポーター様の優先入場。その後、整理券番号順でのご入場となります。)

一般前売:4,300円 当日:4,600円 ペアチケット:8,000円

U-22:2,500円 (22歳以下の方を対象。要・証明書提示)

シニア:4,000円 (65歳以上の方を対象。要・証明書提示)

ペアチケット・U-22・シニアは、前売発売のみとなります。

※開演1時間前より整理券を発行、開場は開演の30分前です。  
※小学生以下のお客様はご入場になれません。  
※作品上演中のご入場は制限させていただく場合がございます。  
※会場内での飲食喫煙・写真撮影は禁止です。

●当日券のお客様は、開演10分前からのご入場となります。  
●当日精算券のお客様は、あらかじめお名前とご来場日時・人数・券種(一般・ペア・U-22・シニア)を劇団宛 (info@seiryu-theater.jp) にお知らせください。ご連絡がない場合は、開演10分前からのご入場、料金は一般前売料金のみのお取り扱いとなります。

■チケット取扱い／清流劇場

web: <https://seiryu-theater.jp>

fax: 06-6429-8387 (ファックス予約期限:7月6日(土)まで)

※観劇のご予約は、ウェブサイト内の「ご予約フォーム」にて、お名前とご来場日時・券種(一般・ペア・U-22・シニア)・枚数等をご入力ください。  
当日、受付にて代金とお引き替えにご入場いただけます。  
※お客様が日時指定をされない場合は、開演10分前からのご入場となります。  
※faxでのご予約も受け付けております。

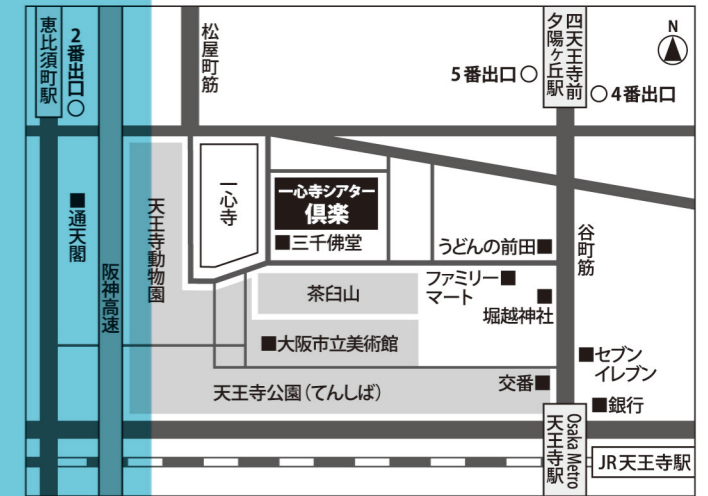
■お問い合わせ／清流劇場 e-mail: info@seiryu-theater.jp



清流劇場は公演サポーター(個人様からの寄付)を募集しています。  
コースと特典リストは清流劇場ウェブサイトにて、ご案内しています。ご支援をよろしく願います。

■会場／一心寺シアター倶楽 大阪市天王寺区逢坂 2-6-13 B1F

tel: 06-6774-4002 <http://isshinji.net/kura/index.html>



●各線「天王寺駅」、Osaka Metro谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」、堺筋線「恵美須町駅」より、徒歩約10分。  
●お客様用駐車場はございません。お車で越越しの場合は近くのコインパーキングをご利用ください。